

# 平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	東住吉区
学 校 名	大阪市立矢田西小学校
学校長名	池田 勝一郎

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・〇〇小学校では、第6学年 〇〇名

## 平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科・算数科とも、大阪市、全国平均より下回っている。算数科は、大阪市、全国平均との差は小さい。無答率は大阪市、全国平均と比較すると国語やや高く、算数科はかなり低い。領域別にみると国語科は「読む」が78.7%で大阪市平均より高く全国平均並みである。しかし「書く」は43.5%、「言語事項」は42.8%で大阪市、全国平均より下回っている。算数科は「図形」が77.1%で大阪市、全国平均より高く、「量と測定」が42.9%で大阪市、全国平均より低い。正答率の分布で見ると、国語科は、正答率80%以上の割合が低く、正答率50%以下の割合が高い。算数科は、正答率50%～80%の割合が高い。

質問紙は、規範意識、人権感覚、自己有用感の項目は、肯定的な回答が95%を超え、自己肯定感、対話的な学びの項目については、75%台であった。

## 分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕ここ数年は、平均正答率の対全国比は、徐々にではあるが、向上してきている。平均無答解答率は、対全国差が小さくなってきている。粘り強く問題解決に取り組む姿勢が身についてきている。課題は、「書くこと」である。記述式の問題についての正答率が低い。誤答の解答類型でも条件に当てはまらない解答や無答の割合が高い。児童質問紙からも苦手意識がうかがえる。

〔算数〕全国平均からは4P程度下回るが、概ね良好である。中央値付近の分布が多く、正答率が50%以下の割合は少ない。課題は、国語科と同様「書くこと」である。記述式の問題の正答率が低い。児童質問紙でも「公式やきまりのわけを理解する」はあまり意識できていない。

質問紙調査より

ほとんどの質問事項で、肯定的なとらえをしている児童の割合が全国平均もしくは平均以上であった。5項目の肯定的回答の割合は、「自分には、よいところがあると思いますか」(72.2%)、「学校のきまりを守っていますか」(99.4%)、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(100%)、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」(100%)、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」(77.8%)である。

育てたい子ども像に近づきつつあるが、「学んだことを実生活に活かす」学びの意識には、課題が見られる。

## 今後の取組(アクションプラン)

- 1 すべての子に確かな学力を身につけるために授業改善を行う。授業をとおして学力向上を図る。
- 2 学力の基礎となる挑む力・やりきる力を育てる。
- 3 互いに学び合い高め合う集団を育てる。
- 4 学力状況の分析を行い、課題を明らかにしてチームで学力向上に取り組む。
- 5 家庭での学習習慣が確立できるようにする。

人格の形成が学校教育の目標である。学力向上に特化した教育にならないようバランス感覚を大切にして取り組みを進めていきたい。また、学力向上は、1年でできるものではない。6年間の長いスパンを意識して取り組みを進めたい。